

バン格拉テシュと手をつなぐ会

ミロン *Milon*

No.95

September 2003

も く じ ミロン No. 95 September 2003

中表紙	手をつなぐ会の活動紹介	10	コンサート報告 福岡・長崎
1頁	ソロブチよりカラムディ村へ	11	会計報告
2~3	カラムディ村報告	12	入会案内
4~9	'03夏 現地訪問参加者感想 現地訪問報告会のお知らせ	裏表紙 裏	行事予定表/研修会のご案内 イベント案内

「ミロン」は、一つになる、手をつなぐ という意味のベンガル語です。

アジアの子どもたちの未来のために

Bangladesh と手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

「Bangladesh と手をつなぐ会」では、Bangladesh ・カラムディで現地の村人による開発のための委員会「Shondani-Shonsta」と協力して、＜教育＞と＜医療＞の分野で次のような支援活動を行なっています。

【教育】の分野では・・・

将来を担う子どもたちの
教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設（1987～89年）
とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達
への奨学金制度
- ③ 職業訓練（ミシン）で技術を身に
つける
- ④ 教科書図書館（教科書が買えない
中学生のために、教科書の貸し出し）
- ⑤ 教育教材（特に理科など）学校設備の
充実

【医療】の分野では・・・

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設（1995年）
とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備
〔1998年～〕
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修
（1995年～97年）
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診
と衛生指導

国内活動では・・・

- ① 会報誌「ミロン」の発行
- ② 定例会の開催（いろいろな学習、イベントなどの参加型学習会）
- ③ 現地訪問の報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ 現地訪問の報告（現場や地域などで）
- ⑤ チャリティーコンサートおよびバザー
- ⑥ 総会（毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など）

その他
夏の現地訪問
冬のスタディーツアーを
毎年実施しています。

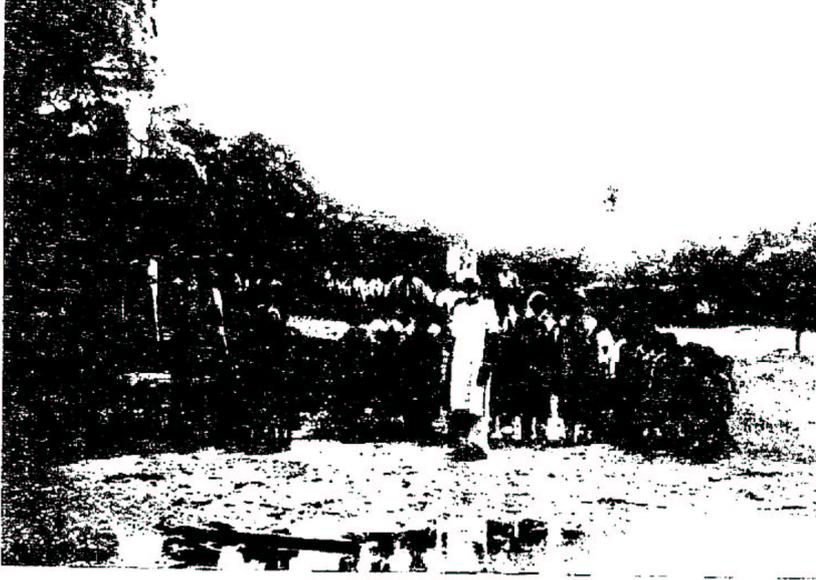
Bangladesh と手をつなぐ会

〒814-0002 福岡市早良区西新5-4-20

電話；092-844-1369 ファックス；092-781-9658

URL； <http://tunagu.tripod.co.jp/>

今年もカラムディ村が、
私たちが迎えてくれました。
手をつなぐ会も15歳になりました。



.....ジャパニ小学校

国際ソロプチミスト福岡東から心電図を寄贈

シオンダニの病院建設時にソロプチミストのご協力のことはみなさん覚えていると思います。その後も、毎年ソロプチミストからご支援を頂いています。今年国際ソロプチミスト福岡東の20周年記念に当たる年です。

日本から持っていった中古の心電図は2年前壊れ、シオンダニは困っていました。また病棟の3階の壁が悪くなり早く修繕する必要になったわけです。ソロプチミストの関係者をお願いしたところ、ご協力いただけることになりました。訪問団が村滞在中にたくさんの村人が参加する中で心電図贈呈式を行いました。待ちに待った一人の患者さんが早速日本の医師と現地医師の立ち会いで診察を受けました。喜びでいっぱい彼の顔の表情はいつまでも忘れられません。村人を代表して感謝の念を表したいと思います。

2003年夏の現地訪問報告

ラフマン・モクレスール

8月9日から21日まで7名で現地訪問を実施しました。SARSの問題で現地訪問を実現できるかが最後まで心配しました。元もと例年と違って今年、訪問時期も少しずらしたことがよかったかも知れません。また珍しく、今年参加者7名の内6名は新人でした。7月半ば頃、二ノ坂さんが参加できないと知り、現地に知らせました。ションダニのスタッフや運営委員たちは突然のことでとても驚き、心配しました。現地訪問の際、二ノ坂さんが不参加の理由を説明するのに一苦労しました。しかしションダニや Dr. サイードとエクラムル宛に書いた手紙を読んであげると、みんなはその内容に耳を傾け、納得しました。ただ時期は関係なく、年内に一度、二の坂さんがションダニを訪問して欲しいとみんなの願いでした。

村の状況

一昨年とちがって、村はある程度落ち着いているように見えました。政治に関心がないと言うより、政治活動で自分たちの生活が変わらないことを少しわかっているようです。市場に行ってみると、野菜や果物でいっぱいです。村人は生活水準向上のために農作物を作っているが、値段が安く、採算がとれないと聞きました。また農業労働者不足が新たな問題になっています。ほとんどの子どもは学校に通い、white collar の仕事を目指し、村を出ていく傾向が強くなっています。これは経済発展への第一歩かもしれません。いまままでみんなは昔のやり方で農業をやってきたが、収穫が少なく、食べていくことでさえ難しかったのです。いま機械を入れ、科学的に農業をしなければならぬ時代になっています。

ションダニの状況

ションダニに対して村人の理解が深まったと言えましょう。ションダニのサービスは不可欠のものだと言うことも地域住民がよく理解している気がします。この2年間、ションダニのスタッフは村人の信頼を回復するために、様々な努力してきました。その一つは新運営委員会です。前運営委員の中に政党に属している委員もいました。彼らはションダニを利用しようとしたし、そのことでションダニのあるべき姿が失いそうになりました。しかし現運営委員会は政治に関係なく、中立の立場をとって活動をしています。

私たちは滞在中、何回か彼らと話す機会がありました。彼らはお互いに信用し、一つの家族のようにみんな一体になって村のことを考え、行動しています。

村滞在中の活動内容

シヨンダニに自主性を持たせるために最近訪問中のプログラムを日本側から送るのではなく、現地スタッフに任せています。彼らは自分たちの一年間の活動を見てもらいたいし、また評価してもらいたいのです。私たちはカフイ村に到着まえ、それぞれの分野の担当者たちがスタッフを集め会議します。日本側にわかりやすく説明するために文書作成、また自己評価文まで入れるのです。今年村に着いた日の夜、滞在中のプログラムと分野ごとのレポートを頂き、前もって活動内容についてある程度の予備知識を付けました。シヨンダニと会議するとき、これらのレポートは本当に役立ちました。

今年村にいる間、シヨンダニと会議をするほか、ジャパニ小学校や子ども基金学校訪問、サライクリニック訪問、夕方村に出ていって村人との交流、若者との交流、奨学生と意見交換、また子牛借り手との意見交換をしました。またハルポール県の国立病院長ほか3名の医師もシヨンダニに来られ、お互いに協力関係づくりについて意見交換しました。分野別の活動内容は報告書に詳しく書くつもりです。忙しい毎日でしたが、有意義な訪問できたことを嬉しく思っています。

スタッフ確保の問題

シヨンダニは誕生以来、有能なスタッフ確保に困っています。特に医療関係スタッフはなかなか長く村にとどまらないのが現状です。村人もスタッフもやっとなれた頃になると、医者も看護婦もシヨンダニを辞めていく傾向が強いのです。若い医師の Dr. シャディンはシヨンダニに来られて2年近くです。彼は村人の信頼を受けているスタッフの一人です。彼は国家公務員試験に合格し、年末にシヨンダニを辞めると聞きました。サライクリニックの担当者のムーニーさんも今年7月に個人的な理由で辞めました。看護婦は全体的に著しく不足しています。国立病院での勤務条件も良いし、将来が保証されているので、シヨンダニの2人の看護婦は年末に退職するかも知れないと聞きました。この問題をどう解決するか、シヨンダニの頭の痛い課題です。

総合的に言うと、村人の様子やシヨンダニの活動を見て満足し、希望を持ってかえってきました。また仕事に対する刺激もたくさんもらいました。私たちは日本でがんばるしかないと思っています。

現地訪問初参加を終えて

永島 学

「百聞は一見にしかず」といいますが本当に今回は実感いたしました。また「郷にいれば郷に従え」とも言います。このことも実感いたしました。

50数年前裸足で遊びまわっていたころ、進駐軍に対し物珍しく追いかけていた子供のころを思い出させました。またガリオアエアロア基金を思い出しました。日曜学校でアメリカの牧師さんから頭をなでられクッキーをもらったことなどいろいろ思い出させてくれました。

日本はこの50数年随分変化いたしました。環境問題 人間疎外 等々問題山積していますがよくぞ日本人に生まれけりと思わずにはられません。先達の志ご苦労に思いをはせざるをえません。

61歳になりリタイヤした今、私は何が出来るのか。 私に何が出来るのか。と考えています。

子牛のプログラムを担当して 各家庭を20軒回りました。ある家庭の女の子に「牛の世話は大変でしょう」と質問したところ学校から帰って遊んでばかりいたのが『牛の世話が出来ようになり少しでも役に立つことができ嬉しい』と答えてくれました。このプログラムには幾つか問題点があるかもしれませんが是非継続していきたいものです。

矢野さんはじめ、日本の若い NGO の男女の活躍にはほとんど頭が下がりました。現地の生活に溶け込み、たくましく明るい笑顔は本当に美しく日本の若者栄光有れとエールを送りたくなりました。

最期になりますが、ラフマンさん初参加の者達ばかり引き連れ大変御疲れでしたでしょう。心より感謝申し上げます。



いつでもかわらない子供たちの笑顔

現地訪問初参加を終えて

佐藤 修二

以前より、興味がある医療ボランティア及び、こちらも以前より憂慮しておったベンガル湾のサイクロンによる高潮のため、時に数万から数十万の犠牲者のであるバングラデシュ南部の沿岸地域を見聞して、医師兼気象予報士としてなにかお役に立てないかと、60歳を前に、体が動けるうちにと思い、初めて参加させていただきました。二の坂先生がご都合で参加できなくなり、一抹の不安がありましたが、世話人のラフマン氏や通訳のアミール氏、そして皆様の御蔭で無事に多大な収穫を得て日本に戻る事ができました。

村の母子保健センターの運営その他は初めてなので、よく分かりませんでした。その病院運営等の詳細はラフマン氏が報告会で発表してくれると思います。病院の印象としては、最低限の検査機器と尿検査及びほんの一部の血液、生化学検査しかできない中で、しかも産婦人科を含め全科を診なければならない病院の2人の医師は、まあよくがんばっていると思われました。しかしながら、シオンダニの病院は本当の貧困層には役立っておらないようで、ミーティング等にて、“貧困者には治療費は無料にして、お金のある人から2, 3倍の料金を取るようにしたら”と私は度々発言、提案してきましたが、今後、検討していただけたらと希望します。また、我が国と全く異なる医療事情があり困難と推察されますが、センターは地域のビレッヂドクターの一次病院と思われ、転送先の二次の国立病院との定期的な3者懇談会、勉強会、そして、三次病院としての管轄の大学病院と提携して、そこからのドクター派遣、教授の回診等実施すれば、口幅ったいようですが地元の評判、信頼を得られると思いました。又、バングラデシュの今後は、唯一の資源である天然ガスの活用と、バンコックから空路2時間少しの近さと、それに仏教遺跡等見るべきものが多く、田舎での“満天の星、天の川”の見事さ、“蛍”の乱舞を売り物にして、今、流行のアドベンチャー、エコツアー等を開発、整備すれば、観光業も成り立ち、経済発展、雇用促進に寄与するだろうと考えております。しかし、なんととっても、この国の将来は、この国を背負っていく子供たちの教育にかかっていると思えます。バングラデシュ中央気象局長官との会見、気象台訪問等および通訳のアミール氏とのバングラデシュ南コックスバザール、モヘシュカリ島訪問の見聞の感想は次回の報告会で発表させていただきます。

現地訪問初参加を終えて カラムディ村を訪問して

福成 美樹

以前から「手をつなぐ会」があることは知っていた。今回私自身ボランティアに興味があり、発展途上国の医療というのを見て自分の視野を広げたいと思って参加した。

村での生活は楽しく、人々は気さくで親しみやすかった。そして、私が最も感動したのが夜空に輝く天の川と、何処までも続く田園風景。この村に来てよかったと思いました。同行した Dr. 佐藤は内科医でありながら、気象予報士でもあり、そして天体も知っていて、サイクロンのこと、星のこと教えてもらい、自然とは不思議なものだと思った。

到着して、右目の眉のところを縫合している患者の処置を見学したが日本では考えられない光景だった。それは、ディスポ（使い捨て）の手袋を着けず処置を行っていたことだった。この現状を見て看護師であるため、「なんだ、これは」と思ったが、物資の不足など、この国全体の医療に対して問題があることを、いろんな方の話から察することができた。

村の人を見ていて感じることは、今を、生きている。明日に希望を持ってないという若者が多い気がする。子供の中には裸足の子供、靴をはいた子供がいて貧富の差があることを知ることができた。そして、小さい子供が働く姿もよく見かけた。私の脳裏には日本も昔は、このような光景があったことを祖母から聞いていたので、なんだかタイムスリップした感じを受けた。「昔の日本もこんな感じだった」と同行の永島さんも言っていたような気がする？この村の滞在中よく考えたことが、「援助とはなんだろう」ということだった。援助する側、される側と立場は違うけど、でも願いは「村を良くする」ということではないかなとおもった。そのためにも共に歩くという姿勢が大切で、村人が望んでいる支援活動が今後出来れば、この村は今よりもっと良くなると思いました。感染に対する知識、そのこと以前に教育をどれだけ受けられるかななどの問題は多いけど解決できない問題はない、と誰が言ったか忘れましたが、明日に望みを繋げたいと思いました。

村人に良くなじんでいた圭太君、現地の女の子に告白されていたことをおもいだすと、今でも一人で笑ってしまいます。ベンガル語の数字を覚えるのに歌つくっていた井上さん、前原さん、若いっていいな～と羨ましく思いました。そして、よく紅茶をご馳走になった Dr. シャディン、私の年を聞いて二歩、三歩と後退した村の人。楽しい人達の出会いが、この旅をより充実したものにしたと思いました。ダッカで出会った青年協力隊の方々、本当にお世話になりました。色々なことがありましたが、人の温もりを感じ、共に生きることの大切さを実感した日々でした。

現地訪問初参加を終えて 「ベンガルマジック」

前原 さやか

大学で開発援助のゼミを専攻していて、特に教育に関しての援助の現実を見たいと思い、今回の現地訪問に参加させていただきました。

バングラデシュという国は知識としては知っていたものの、実態がつかめないうか、イメージが湧きにくい国でした。が・・・！！途中で体調を崩したにも関わらず、カレーの嵐だったにも関わらず、今まで行った国の中でどこの国よりもインパクトの強い国だったとつくづく思います。はっきり言って取り憑かれました！

現地訪問のことに関しては、話を伺った人ごとにおっしゃることが違っていたり、真実が見えにくいことなどが度々あって、2週間ではあまりにも分からないことばかりだと言うのが正直な感想です。

開発学的なことを言えば、トップダウン式の援助形態をいかに打破するか、パートナーシップをどのように築いていくかが難しい課題ではあります。また「援助」と「協力」という言葉の違いについても、手をつなぐ会とジョンダニの関係を通して考えさせられました。この国に本当に援助は必要なのだろうかと考え込んだ日もありました・・・

今回のスタディーツアーを通して、様々な意味で私の中の価値観が変わり、バングラデシュから目に見えないものをたくさんもらって帰って来た気がします。これから卒論にとりかかりたいと思いますが、ベトナムに決定していた対象地域をバングラデシュに変更することは確実です（笑）

最後になりましたが、今回のツアーでお世話になったすべての方へ厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました



いつも明るく迎えてくれる村のみなさん

現地訪問初参加を終えて

井上 愛

毎日が楽しすぎてあっという間に過ぎてしまいました。日本で楽しいことと言えば友達とご飯を食べに行ったり、買い物をしたり、プールに出かけたりという様なことですが、村では現地の人と話したり、子供たちと遊んだり・・・全く違った楽しさがありました。

どこにいても「日本人だ、日本人だ」と沢山のの人に囲まれて、見つめられ、人気女優がサインや写真を求められるので簡単には外に出られないというのが少し分かったような気がします（笑）。

この旅に参加するまでは国際協力って、素晴らしい事で良い事だと思っていましたし、もっともっと日本などから沢山の人とお金を送り社会や医療を充実させていかなければならないと思っていました。

しかしダッカについてすぐ感じたのが、『本当に援助は必要？』ということでした。これは私が旅中ずっと考えていたことです。

海外協力はいいことで、なんかかっこいいなあ。という単純なあこがれがきっかけで今の看護の学校に入った私にとっては自分でもこう感じたのがすごく意外で驚きでした。

沢山の人が商売をしていて、活気があって、人と人とのつながりが日本よりも大切なもので、時間はゆっくりしていて・・・日本のような発展をすること＝幸せ、とは限らないのでは？援助をすることがありがた迷惑にもなり得るのでは？とも考えました。

普段全く使わない頭を使って沢山の事を考えたのでカラムディ村での滞在中に熱を出してしまい、2日寝込んだことが心残りであり、周りの方に迷惑をかけて申し訳なかったです。

10日ほどバングラで生活してみて、私の結論はやはり援助は必要であるということでした。しかし『その人たちのニーズに合った』と言う条件付で。村の人は本当に高度な医療を求めているのか、特殊教育をする学校を求めているのか、それとも・・・？見極めるのはとても難しいですが、手をつなぐ会の考えていかなければならないことの一つではないかと私は思いました。

ラフマンさんを始め訪問団の皆さん、ありがとうございました。

それから・・・またバングラに行きたいです！！

現地訪問初参加を終えて

井口 圭太

最初は何気に興味本位で参加したこのツアーも村に着いて1日1日と過ごすたびに現地に住む人々の暮らしが見えてきて、自分なりに考えざるを得なかった。

例えば学校から50mも離れていないのに親の手伝いで学校へ行けない子供。それに比べ、シヨンダニのスタッフの子供の男の子は周りをはだしなのに、靴下をはいて、きれいな靴を履いていて、学校の生徒がみな整列して僕らを歓迎してくれている時にも1人だけ日陰で休んでいた。同じ子供でなぜこんなに違うのか？まして、援助活動を行っているスタッフがいい暮らしをするのはいいが子供がそういった態度をとっているのを知りながら何も言わないのはおかしいと思う。これだけでなくシヨンダニのスタッフには他にも疑問を持つことがあって、最初のイメージと大分違った。それらが分かっただけこのツアーに参加した意味があったと思う。もっと書きたいことが沢山あるが、それらは、報告書に書こうと思う。とりあえず最後に感想を言うと、カレーはもう食べたくないです！

さらに詳細な報告や、参加者の声が生で楽しめる
現地訪問報告会。是非、足をお運びください。

今年も、シャナさんのオカリナとギターの
コンサートを合わせて楽しむことができます。

9月28日〈日〉13:30から16:30

会場；九州キリスト教会館にて

チケット 500円です。

15周年記念コンサート

『2台のクラヴィーアによるファンタジー』を終えて

5月10日 西南大学内ランキンチャペルにて私達「バングラデシュと手をつなぐ会」15周年の記念コンサートを開催いたしました。

ピアノやチェンバロの前身となる楽器「クラヴィーア」その貴重な楽器2台による演奏会というのは国内でもめずらしいものだそうです。同じ音色は2つとしてないクラヴィーア。2台の奏でる音色もまた少し違います。そのピアノともまた少し違う独特の音色。静かなチャペルに広がる美しい音色に包まれて、素敵な時間を過ごしました。クラヴィーアによる演奏だけではなく、楽器そのものの説明があったり、コンサート後にはステージに上がり、実際にクラヴィーアを間近で見たり触ったり。そしてそのクラヴィーアを作成したご本人が直接質問に答えてくださり、普通のコンサートとはまた違った体験もできました。やはり皆さん、このめずらしい楽器に興味があるようで、ステージの上はたくさんの人ばかりがしていました。

当日訪れてくださった観客の皆さま、誠にありがとうございました。

また、今回は各方面からいろんな方たちがスタッフとして協力してくださいました。西南大学ESの皆さん、西南中学の生徒さん達、バングラデシュやNGOに興味があっけてくださった皆さん・いろいろな人たちに支えられて私たちの会は運営されているのだなと改めて実感することができました。また次のステップに向けて一緒にがんばっていききたいなと思った1日でした。皆さま、本当にありがとうございました。

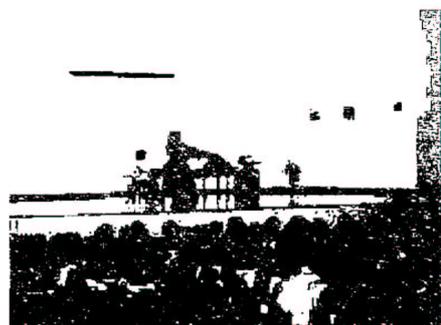
篠崎 潤子 (福岡)

平成15年度 第5回 チャリティコンサートを終えて

今年は、第5回ということもあり、毎年ご協力下さる宮坂純子さんと相談しまして、関東で活躍されている「岩淵恵美子」さんをお迎えしてのフォルテピアノの連弾という日本でも初めての試みではないかと思われるコンサートが実現できました。今年から『メルカつきまちホール』に会場を変更しましたが、満員になる程の皆様にお越しいただき、盛況の内に終わりました。途中の休憩時間を利用しての、二ノ坂医師による現地訪問報告会もあり、『母子保健センター』に対する関心も深めていただけたものと思います。

当日の曲目は、シューベルト「二台のピアノのための軍隊行進曲」、モーツァルト「ファンタジア・ハ短調」、バッハ「アヴェマリア」、バッハ「ファンタジア・ハ長調」、モーツァルト「きらきら星変奏曲・ハ長調」、ハイドン「アンダンテと変奏・ヘ短調」、モーツァルト「二台のクラヴィーアのためのソナタ・ニ長調」で、心の芯まで響く音色に時の経過を忘れてしまうひとときでした。

河内 英一 (長崎)



チャリティーバザー

10/26(日)13時~

にのさかクリニック前駐車場にて

バザー用品をご提供ください

詳しくは下記へご連絡をお願いします。

連絡先

にのさかクリニック 872-1136

宇治 090-9603-2439

「地球市民とんたく2003」

11/15.16 11時~18時

ソラリアセファ(天神ソラリア1階)

販売ボランティア大募集!

天神でバン格拉デシュの民芸品・紅茶を販売。
会場には他国の民芸品も多数販売中、見るだけでも楽しいですよ。1時間でもOKです。ご連絡ください。(090-9603-2439 宇治)

<会計報告>

(8月20日現在)

募金協力者 (敬称略)

山田不二子 藤吉節子 金子圭子 川瀬京子
安武仁子 吉岡光子 長沼和子 松村祐二郎
芳澤江美子 鹿子島スエヨ 阿部千鶴
岩崎敦子 細迫玉美 松田純子 野崎一子
更生園 福本トミコ 山崎博敏 今泉弘子
百武尚子 中牟田久雄 上野すぎえ 永島学
日向新生教会 国際ソロプチミスト福岡一東
松本幸子 井口弘幸 井口永子 野芥保育園
バン格拉デシュの母子保健センターを支援する会
宮辰建設あゆみの会 にのさかクリニック窓口募金箱
教育へ・・・佐藤修二 八木良子 瀬良照子
医療へ・・・八木良子 藤岡美保



ご協力有難うございました



旅費カンパ者 (敬称略)

井上伊磨子 八木良子 山下久代
古賀南 水谷巖 亀山稔
山下久代 松隈則子
藤田小四郎 滝本康子 西田和子
小崎タカ子 福山陽介 松隈辰夫



新会員紹介 (敬称略)

【会員】永島学 二瓶温子 井上愛
白杵秀子 高木洋子 福成美樹
小柳純子 屋敷信子 椎葉雪子
【協力会員】日浦瑞枝 佐藤修二
いのちみらい21の会 井口圭太

事務局日より

この夏、現地訪問団が購入した民芸品と紅茶の販売を始めました。バン格拉デシュの文化が縫い込められた刺繍「ノクシカタ」、高温多雨が育んだ紅茶はいかがですか。一年の後半はスケジュール満載で猫の手も借りたくない時期です。お手伝いいただける方、ご連絡をお待ちしています。

事務局 宇治

9/28 報告会会場で販売!!

バン格拉デシュの民芸品 500円~3000円

紅茶 500円 現地訪問報告書 (一冊100円)

紅茶の予約を受け付け中。9/25日までに

Faxにて下記へご連絡を。

連絡先:092-781-9658(宇治)

受け渡しは報告会会場で

入会のご案内

Bangladesh と手をつなぐ会に

あなたも参加しませんか？

「 Bangladesh と手をつなぐ会」では、 Bangladesh ・カラムディ村の
＜教育＞と＜医療＞への協力活動を支えてくださる会員を募集しています。

- 会 員 会の運営にかかわり手伝い方：総会の議決権を有します。
会費： 月額500円〔年間6,000円〕
- 協力会員 会の趣旨に賛同し、協力する個人または団体の方。
会費： 一口月額1,000円（年間12,000円）
.....何口でも結構です。
- 会費振込先 郵便振替口座 01720-2-10442
加入者名 Bangladesh と手をつなぐ会

入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送でお送りください。

..... きりとり

Bangladesh と手をつなぐ会：入会申込書

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏 名 _____ (男・女)

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 (才)

職 業 _____ (差し支えなければご記入ください)

住 所 郵便番号 _____

電話・ファックス・e-mail _____

(会員 協力会員) として入会を申し込みます。

会費は _____ 年 _____ 月分 から _____ 年 _____ 月分までの

_____ 円を (直接 郵便振替で) 納めます。

今後の行事予定

□ 変更になることがあります！ 事前にお問い合わせ下さい。

9月18日(木)	19時～	運営委員会	西新事務所
28日(土)	13:30～ 18:30	現地訪問報告会 & Shana コンサート	九州キリスト教会館
10月2日(木)	19時～	事務局会議	西新事務所
16日(木)	19時～	運営委員会	西新事務所
24, 25日	午後～(予定)	バザー準備・値段付け	西新事務所
26日(日)	13時～	秋のチャリティ バザー	にのさか クリニック前 駐車場
11月6日(木)	19時～	事務局会議	西新事務所
11月9日(木)	14時～	教育シンポジウム	留学生会館
11月15日 19日(日)		地球市民 どんたく	ソラリアビル 1階ゼッパ
11月20日(木)	19時～	運営委員会	西新事務所
12月3日(木)	19時～	事務局会議	西新事務所

みんなで一緒に教育について考えてみませんか？



教育シンポジウムを行います。

11月9日 14時～17時

福岡学生交流会館 国際交流フロアにて

(博多区店屋4-1 4階)

「地球共育の会」吉野あかね氏によるシンポジウムや、
ワークショップなどを予定しております。

参加人数に限りがあります。お早めに申し込みください。

詳しい内容等はお尋ねください。

秋のチャリティバザー

秋です。恒例チャリティバザーを行います。

10月26日 13時から

にのさかクリニック駐車場にて

(オカリナとギターのShanaさんのミニコンサートもあります)

*値段付けや販売のお手伝いのボランティアを募集しています。

バザー用品の提供もご協力お願いします。



地球市民どんたく 2003

今年も、地球市民どんたくが開催されます。今年のテーマは「小さな輪、つないで大きな国際協力」です。これに基づき様々な企画が模様されます。今年も、当会は実行委員会としても参加。ブースの出展によるパネル展示や、物品販売、会の活動紹介などを行います。他の地元のNGO活動を知る良い機会でもあります。どうぞ、お気軽にご参加ください。

また、当日のスタッフも募集しております。みなさんのお越しをお待ちしております。

日時 H15年 11月15日(土)、16日(日) 11:00~18:00

場所 ソラリアステージ 1階 ゼファ

* 尚、これに伴い、広域地域リーダー国際協力セミナーも開催されます。

こちらにも是非足をお運びください。

日時 11月22日(土) 13時から17時30分

会場 ソラリアプラザ1F ゼファ

